

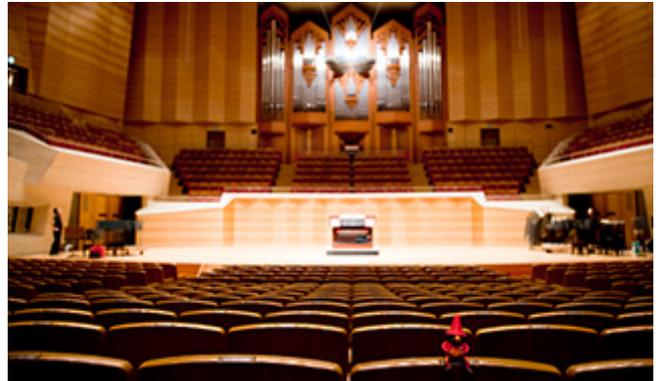


クラシック・ライター 片桐卓也さん「ラ・ボエーム」

「ラ・ボエーム」は、イタリアの作曲家 プッチーニが書いたオペラの傑作です。

パリに集まる貧しい芸術家たち、若い芸術家たち、ボヘミアンの群像劇。悲劇でもあります。そして、あのミュージカル「レント」の原作にもなったと言われている傑作です。

その若い芸術家たちを、若い歌手たちが歌う。今回の公演の見所はそこだと思います。



サントリーホール

サントリーホールでは、「オペラ・アカデミー」という若い歌手たちのためのアカデミーをずっと続けています。その若い歌手たちが、この「ラ・ボエーム」のキャストに挑戦します。

若い歌手たちの歌う、若い役。それがこのオペラの醍醐味だと思います。ぜひお楽しみください。

オペラ「ラ・ボエーム」は、アークヒルズの「サントリーホール ブルーローズ」で1月21日に上演されます。

(2016.01.19)

開催概要

- 期間：2016年1月21日（木）18:30開演（17:50開場）
- 場所：サントリーホール ブルーローズ（アークヒルズ）
- 入場料：指定 ¥5,000
- ▶ サントリーホール オペラ・アカデミー公演「プッチーニ：オペラ『ラ・ボエーム』」

プロフィール



フリーの編集者を経て、1990年からクラシック音楽中心のライターとして活動を始める。現在はクラシック音楽専門誌に定期的にインタビュー、批評などを執筆。その他、クラシック音楽の講座、コンサートのプレトークを担当することもある。ミュンヘン国際音楽コンクールなど、世界的なコンクールの現地取材も経験。最も関心のあるジャンルは17～18世紀のオペラで、その上演を観るために、海外へ出かけている。